

黄泉比良坂

日本の神話において、黄泉比良坂は冥界への入り口とされ、イザナギ神と女神であるイザナミが永遠に別れた場所です。『古事記』という伝説を集めた古代の書物によると、イザナギとイザナミは宝石の槍で海をかき回して日本列島を作ったとされています。イザナミは火の神を産んで死んだ後、黄泉の国と呼ばれる冥界に入りました。夫のイザナギは、彼女を生者の世界に連れ戻すために急いでそこへ旅立ちました。イザナミはすでに冥界の食べ物を食べてしまったため、戻ることを禁じられていましたが、彼女は神々に例外を認めてほしいと懇願しました。イザナギが長い準備を終えるまで彼女を見ないことを条件に、イザナミは戻ってくることができることになりました。イザナギは辛抱強く待っていましたが、ついに我慢できず一目見てしまいました。そしてイザナミがウジ虫だらけの腐った死体になっていたところを見てしまい、衝撃を受けました。裏切られたことに激怒したイザナミは、イザナギを捕らえようと鬼や鬼婆の軍団を送り込みましたが、彼は追い払うことに成功しました。イザナミは自らイザナギを追いかけていましたが、イザナギは生者の世界に逃げ込むことができ、冥界の入口に大きな石を置きました。その石は今日、黄泉比良坂で見ることができ、いまだにイザナミが逃げ出して世界に災難をもたらすのを防いでいます。